



Profile

阿波庭縁

尾崎誠さんは庭師として約30年、植木の選定、消毒、デザインを含めた庭づくり全般、和洋のジャンルを問わず、顧客のイメージにあった庭づくりを行っている。庭木に関心を持ってもらいたいと始めた盆栽ワークショップは、あちこちのマルシェやカフェなどから声がかかり、週末は休む暇もないほどの大忙し。SNSでの発信も積極的に行っている。



庭木や盆栽が紡ぐ縁を大切に 丁寧な庭づくりを心がける

家業の手伝いをはじめた当初は庭や木に対して、そんなに思い入れはなかった。木は人の手を入れることによって、成長を促し美しくなっていく。木を切り水をやり、肥料を施す。そんな日々の繰り返しの中でいつしか木を好きになっていくことに気がついた。今は、自分が手入れした庭を見て、人々が喜んでくれることがなによりの喜びになっている。

好評を博している盆栽ワークショップは、サクラやイチヨウなどさまざまな種類の木で作る。今、取り組んでいるのは、地域の名産を盆栽にすること。スタチ、ユズなどの柑橘類、お茶、キウイフルーツの仲間とそのツルが祖谷のかずら橋の材料となっているシラクチカズラなど、徳島を思い起こさせるものばかり。すでに2022年徳島市で行われた阿波晩茶の大きなイベントでお茶の盆栽づくりワークショップも行っており、小さな盆栽の中での徳島を作ることによって、地域貢献につながればと考えている。

庭師も盆栽の仕事も一人で行うが、将来は、人を雇い「川、海、山、自然がいっぱいの徳島の良さを活かした庭づくりがしたい」と尾崎さん。日本の庭という文化を次代へつなぐという思いをこめて、今日も木と向かい合う。